



浅草橋

須賀神社

笹団子團子天王

御祭神
御神徳

素盞鳴尊 (スサノヲノミコト)
摺土重来 国土開発
家運隆昌 疫病退散

御鎮座
東京都台東区浅草橋2丁目29番16号
TEL 03 (3851) 7044



年中行事

一月一日	歳旦祭
一月	焼上祭(御焚上)
	十五日以降の日曜日
二月三日	節分祭
六月	例大祭
	第一金曜、土曜、日曜日
六月三十日	大祓式(茅の輪の神事)
九月十五日	敬老祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月三十一日	大祓式

笹団子詣は例大祭日か正月ですが
いつでも神社で受付けます。



笹団子



茅の輪の神事



牛頭天王祭礼図



本殿御内陣

◆御祭神◆

素盞鳴尊 (スサノオノミコト)

天高原の多くの神々の中でも、万能の神、天照大御神の御弟であるミコトは、生まれながらに大いなる力を持ち、喜怒哀楽が豊かで様々の神話が伝えられますが、天照大御神が天の岩戸を出られ再び光をさずけ給いてより、大御神の深き慈愛、優しい御心に心打たれ、下界の出雲の国に天降り給いて、八咫の大蛇(ヤマタノオロチ)を退治して、苦しんでいた櫛名田比売親子、村人等を救われました。御姫に櫛名田比売を迎えられ須賀の宮をお造りになり、出雲地方の開墾、繁栄に大変寄与された優れた神様です。

八雲たつ出雲八重垣つまがみに 八重垣つくるそのまえがきを
この歌は和歌の祖とされ、和歌の神ともされております。

◆御社歴(いわれ)◆

当神社に所蔵される「當社牛頭天王縁起」によれば、當社牛頭天王之本所在ハ、尾張国津嶋牛頭天王ニ有リ来ル所之社也、然シテ人皇三十三代推古天皇之九歳辛酉夏、武江町村共ニ疫病時代之所、其頃比叡森之中天王之神詞有リ、比郷之人々病難平癒ヲ願望シテ、比祠ヲ祈護コトクゴトク得快氣ト云。統世々比森ニ有鎮座久シ以下略とある。その御縁起によれば、神社の御創建は、推古天皇九年(西暦六〇〇年)の夏となる。又神社に別に所蔵される「天王塚碑文」、江戸時代の書物「求涼雜記」「江戸名書図会」には、村上天皇(西暦九五〇年)の御代の御創建とある。その時代に御再建されたとする。江戸時代、寛永十六年神嗣大破の時、三代將軍徳川家光が松平伊豆守信綱に仰せ出され、公錢を賜り、町奉行神尾備前守元勝、朝倉石見守任重が主となり御造営が行われた。江戸時代このあたりは大きな札差が多い所で、江戸の経済を動かすほどの力があり、又大の祭好きの人が多く、六月の祭礼は「江戸名所図会」等にも四頁にわたり描かれており、両国吉川町大黒屋平吉の板による「新板御祭礼双六」には江戸十社の中に入っており大変栄えた神社で、社名も牛頭天王社、祇園社、蔵前天王社、団子天王社等と多様に御崇敬を得ておりました。

明治元年神仏分離令により、別当天台宗東叡山寛永寺、末真鏡山宝現院大円寺より分離、須賀神社と改称された。

大正十二年関東大震災により災失、仮普請の後、昭和九年、社殿、倉庫、社務所を造営。社殿は尾州松村銅瓦流造の豪華なる社殿であったが第二次世界大戦にて焼失。昭和二十年戦後の焦土と化した苦難の時代に、社殿社務所を造営。昭和三十六年、現在の鉄筋コンクリート銅板葺流造の社殿、神楽殿、社務所を造営。平成十二年神社御創建千四百年記念事業として大鳥居、狛犬、神社裏の堀等を改築、現在に至る。

◆牛頭天王と茅の輪の神事◆

天王様とは牛頭天王の略称で別名武塔神とも言い、素盞鳴尊の化跡であると伝えられ、又天竺の菩薩が神様の姿で権現したともされ、京都祇園社に祀られるを初めとしております。「備後風土記」によりますと「昔、北の国に座しませし武塔神が南の国へ姫探しに赴かれ、日が暮れて宿を求められ処、彼の地に蘇民将来と巨旦将来なる兄弟の両家がありました。弟の巨旦将来は富裕で家舎一百も持ちながら、けちで宿泊を断りましたが兄の蘇民将来は貧しいながらも快く宿を貸し、粟飯を出しミコトを歓待しました。後米ミコトは八柱の御子を率いて再び蘇民将来を訪れ、詔して曰く「吾は素盞鳴尊なり、汝の子孫のために報いん」と茅の輪を作り「腰のほとりに付けよ」とお教え給い、この家にあるもの皆疫病の難を免れたり」とあります。この故事により、六月の大祓には神社前に茅の輪を作り夏に起こりやすい疫病のお祓いとして、茅の輪の神事が行われております。

◆笹団子詣「牛頭天王縁起」◆

昔このあたりに住む百姓の一人娘が十二歳になった年の夏、疫病が大流行し、その娘も病にかかり両親は大変心配し、毎地元の天王様に病氣平癒の願をかけ、毎日お詣りを続けて、二十一日すると不思議に病は全快いたしました。両親は大変喜び、娘の歳の数と一年の月の数を合わせた団子を笹に刺して御神前にお供え致しました。それ以来、願い事又は御礼のお詣りで笹団子を奉納する人々が大変多くなり、江戸時代の書物によると「早朝より群集して、是を取り得れば病難を除ると、あらそいて取る事、近辺の氏子の家より出、道にて団子を皆取られ、穀竹ばかり神前に納む、是神事の様に成れり」とあります。昭和の代に入りましてからは、疫病退散のお守りとして神社で作った笹団子を氏子の家々に配って居りましたが一時中断し、平成に入り復活、現在は神棚の近くにお祭りいただいたり、絵馬に願い事を書き入れて神前に奉納いただき、大変御利益を得ております。